

2025年度 一般選抜Ⅱ期(2/16) 国語 出題意図

大問一 出題意図（問題一全体）

問題文は、自然界における「共生」と「循環」のシステムを、人工閉鎖生態系（バイオスフィア2）の失敗やミツバチの減少といった事例から論じている。人間中心的な工業的効率性の追求が生態系のバランスを崩壊させる危険性を指摘し、生物間の巧妙な相互依存関係（共進化など）から持続可能な社会への示唆を読み取る洞察力が求められる。

出題意図（個別問題）

問一：文脈に適した熟語（大繁殖、突然、席卷など）を選択する語彙力を問うた。

問二：接続詞。逆接（ところが）、対比（一方）などの論理展開を示す語句を補う力を問うた。

問三：記述問題。「バイオスフィア2の失敗」と「工業的養蜂の悲劇」に共通する要因について、自然界の複雑な相互作用を無視し、人間の浅知恵で生態系を単純化・工業化しようとした点にあることを論理的にまとめる記述力を問うた。

問四：指示語の理解。「彼ら」が指す、最後まで生き残ったゴキブリなどの生物を特定

する力を問うた。

問五：空所補充。地球環境（バイオスフィア1）と人工環境（バイオスフィア2）の対
比関係を理解する力を問うた。

問六：慣用句。「反面教師」という言葉を用いて、失敗事例から学ぶ姿勢を表す語句を
補う力を問うた。

問七：生物学的用語。「寄生」ではなく、互いに利益を与え合う「共生」や、アリカと
アリマキの関係のような戦略的関係を文脈から読み取る力を問うた。

問八：内容合致。本文の主張（共生と循環の重要性）と整合しない選択肢を見抜く読
解力を問うた。

大問二 出題意図（問題二全体）

問題文は、ヴィゴツキーの発達心理学における「対話」と「発達の最近接領域」の重
要性を論じたものである。子供の知的発達は孤立した個人の内部で完結するものでは
なく、他者との対話や社会的相互作用を通じて外から内へと形成されるものであると
し、画一的な教育観に対し個に応じた対話的環境の必要性を説く筆者の教育思想を把
握する力を問うた。

出題意図（個別問題）

問一：文脈に適した熟語（洞察、覚醒、周知など）を選択する語彙力を問うた。

問二：空所補充。ピアジェの説における「内的な活動」と「外的な活動」の関係性を文脈から判断する力を問うた。

問三：空所補充。対話的交流が少なければ「内的意識」や「言語能力」の発達も遅れるという相関関係を読み取る力を問うた。

問四：指示語の理解。「それ」が指す、訓練によって可能になる「自転車乗り」などの特定の技能を特定する力を問うた。

問五：内容理解。「子供の内面に自然に起こる発達」とは、大人の強制ではなく、環境との相互作用により自発的に活性化されるものであることを理解する力を問うた。

問六：空所補充。子供を「画一的」に教育することの対義として、個性を重視する姿勢を読み取る力を問うた。

問七：理由説明。発達の条件を定型化できない理由は、子供一人一人が異なる「最近接領域」を持っているからであるという論理を把握する力を問うた。

問八：内容合致。ヴィゴツキー理論の核心（対話と社会的相互作用の重要性）と矛盾する選択肢を見抜く力を問うた。

大問三 出題意図（問題三全体）

日本の伝統的な季節感に基づく時候の挨拶の知識と、近代文学作品を用いた文法理解を問う問題である。

出題意図（個別問題）

問一：時候の挨拶（陽春、盛夏、新春、立春、残暑）が、具体的に何月頃（1月、2月、4月、8月など）に対応するかを問うた。

問二：川端康成の文章を題材に、文中における語句（副詞、動詞、名詞、接続助詞、形容詞）の品詞を正確に識別する文法力を問うた。